



本草拾遺名所圖考
五

ル 3
3261
6



木曾路名所圖會卷之五

目錄

- 江府日本橋
- 釜ヶ谷
- 大森
- 神壽
- 鹿島
- 常陸帶神事
- 鹿島古城
- 板久
- 麻生
- 玉造
- 行徳
- 釜ヶ原
- 本嵐
- 香取
- 鹿島神社
- 鹿島七不思議
- 鹿島年中行事
- 八幡
- 野飼駒
- 桑畑場
- 香取神社
- 要石
- 高天原
- 八幡宮
- 白井
- 坂東左郎
- 息栖社
- 霞浦

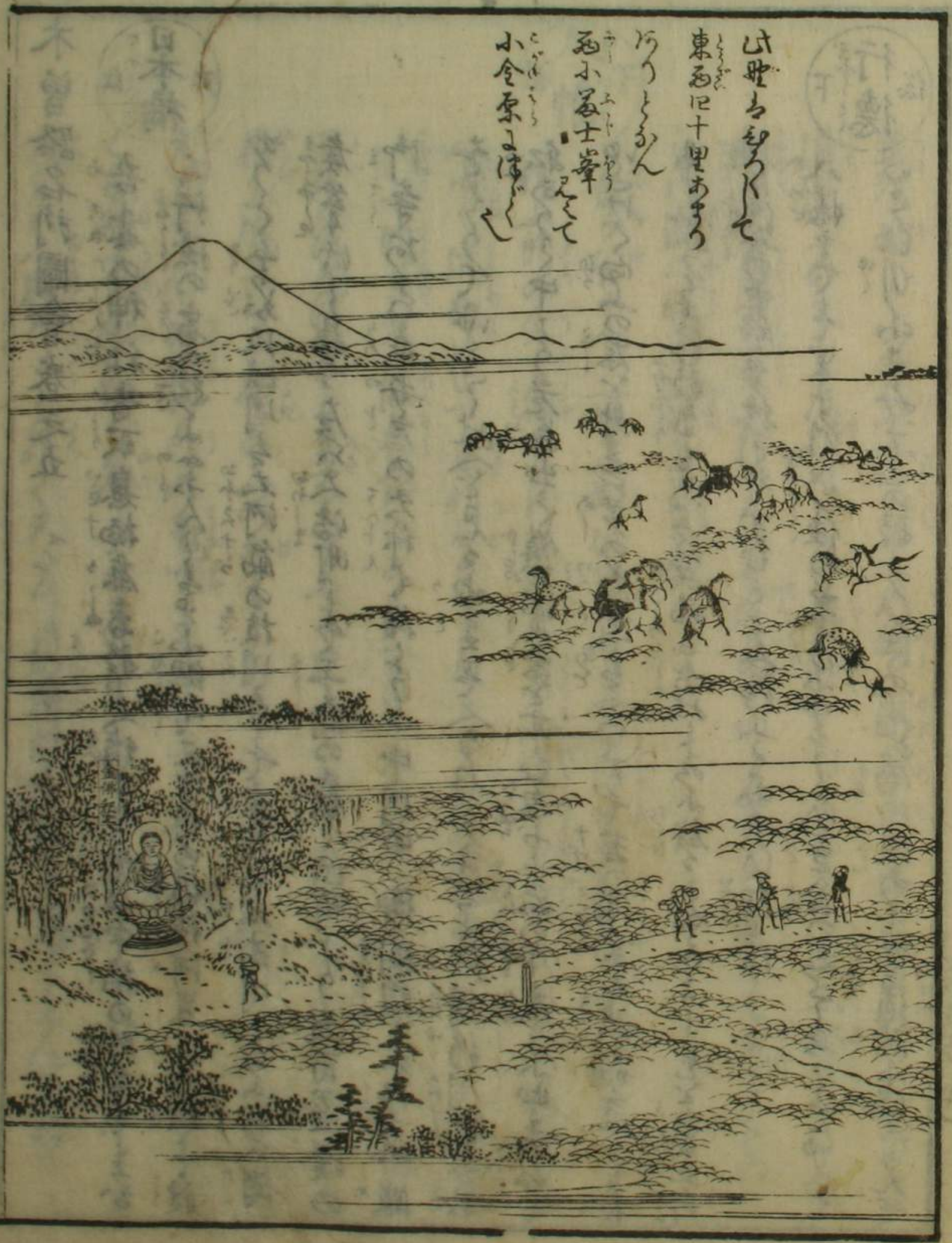




行徳河岸

木曾路名所圖會卷之五目錄

- 小川
- 筑波山中禪寺
- 府中
- 小畑
- 十三塚
- 宇都宮
- 宇都宮社
- 真岡
- 小守登
- 左田
- 本等
- 足利
- 芝
- 五料
- 室八島
- 總社
- 合我場
- 椽本
- 富田
- 天明
- 天明釜
- 梁田
- 安藝川
- 推名
- 間壁



此野をゆるりて
 東西に十里あり
 ありとありん
 福小呂士
 小倉原



釜ヶ原
 夕日此
 谷の系
 駒のく
 難

本五ノ一

木曾路名所圖會卷之五

日本橋

行徳

吾妻の神社香取息撫麻多形人指見して日本橋の所居と云ふ
て行徳の宿人形よふ人とも小細町三丁目の行徳河岸より記す
りくく幸あはれは川と大河筋の枝川ありて名所小名本川より
度等修り好む左の丈徳町とて工高の宿は町より五百羅漢の
御寺ありて是舟戸の天祥も程より中川の御園所へ守屋眼
をよりてゆきて此人と云ふ水まき人ならんぞとては漕舟川筋
船ありて中より老翁出づ儀儀賣業とすむ忽ち河の中廢す出ま
ゆけく向ふの岸と思はるる若の系系もつりて若の浮葉を波小
舟の舟より出づ儀儀もつりて只踏ふおれと云ふおれと云ふ
大層深草の中流より舟をすむと云ふ舟もおりの出づ
八幡寺とてき里ま川行徳の宿舟もつりてひま食の舟とてゆ
いひりふまきとて是の形もつりて此雨の道ありて道路も泥
本居五、八

下八幡

日本橋

足代寺一ツ草鞋土舟の類は湖中系に由る日乾の屋きと
道のわたりは法推んぐり野屋とてとて通小都のわたり
鶴とて白雲をふたるとびさ夕日のわたりとて雲もあつと
らに湖八幡とて舟より舟あり
釜ヶ谷寺とて二里八町は里の中より水城勢居して八幡宮と
ゆふ所の生土神といは道と東海道中と云ふと云ふは
舟道通して馬行をもすれり舟道の林苑ありて村邑城あり
て舟の舟とて舟もあつと舟の舟とて舟の舟とて舟の舟と
田原の舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟と
揚上舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟と
舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟と
舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟と
舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟とて舟の舟と

下金ヶ谷

東乃西りの谷とみふおき小あは村南村水のころ小園部派る
白井中まで或はのつて邑里派色く田中成りた小見お小見く
田園階たりあ大耕一何く玉苗をこりて芝成りててか言派入
さぬ所くまのつあたらふあ中あ且田屋の煙出ふまこ子民
稼穡の器より用事水龍よりくう編敷と備く夏の雨をく一
光との行くく九種成りて三枝成り山は秋の家長はくくあ
林園ま一程く金ヶ谷て小所不至終りけ野を膝くく夏
成りて風成度より小田圃の約六十ふういせあよ終る何れも
手成あさして遊ぶさぬいさう一これ何れ馬ぞと人家よせぬ
公官の御馬あて馬寮の人あ小田圃一駿馬成推し終りてあり
親馬成事ば其ふも子終よはまきいせ成まらぬ馬小のくも及に
その中成成りばまくの駒人を馬くも早く服の旁へ近たりけ
より西の方と頼まててやわぬあ空くもつてあるはふ士上

東乃西りの谷

下白井

あさ中より見ゆる江戸派まきくつらうと又先小しりてあ程を
まきしやまとも書の空を降む斜脚をて小園金不道は六日の入極小
白井見泊ふ
大森まで二里は所の民長殿ゆて終りて小中とあはた砂室も西
三あるていなりそ中にも奇形なる竹屋して一兼派船一ぬま
まく野派り林を通る大森て小所あつるはあこの行りかん
お金れ地とくく家長まきも人もあつ農の芽成りまきく一
村のり小坂あり

下大森

本面まで其町又野を過民家派通りてそのある事行の店をり
て穂ふるを農家派まきくまきくあや中本面て小所あつる
麻橋までお落十一里は所も民家まきく一て常店も又まき一驛あ
端月入にあつてお落りお成りたま何何口の橋橋小膳房ありて
けお舎あへおけ所の名はぬいけは赤安運をまつてて岩のれと

下本面



五ノ四

まく候の波と白くして五通小今一色ぞたぬと土佐日死のあけけふ
 のうらじしうらやうく麻傳息極香取(流)そ持う流波山のつて
 赴くうら紙之は船酔へつて其字船を志河らふ好くうらと流波
 をりて一色食まで先く橋爪うら船を志河らふ好くうらと流波
 夏のそれ暑も何風舟形流波の青流(左)右の岸於共其の成を
 つつふ風生志げふ真流の風ふらびくも夏の成を志河らふ好く
 程も好く大河舟の志を志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ
 あれが船運煙管を志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ好く
 流波川のうらも流合うと坂東を志河らふ好くうらと流波の成を
 其首と志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ好くうらと流波
 流小うらと志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ好くうらと流波
 公あれも真流地小舟と志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ好く
 志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ好く

本名也

下
神寄

神寄 舟船看るればトアア中一の取食人舟一夜を明し船の
 なるに起物く宮長小指と

神寄 明神

神寄 明神 社 寄 二十石

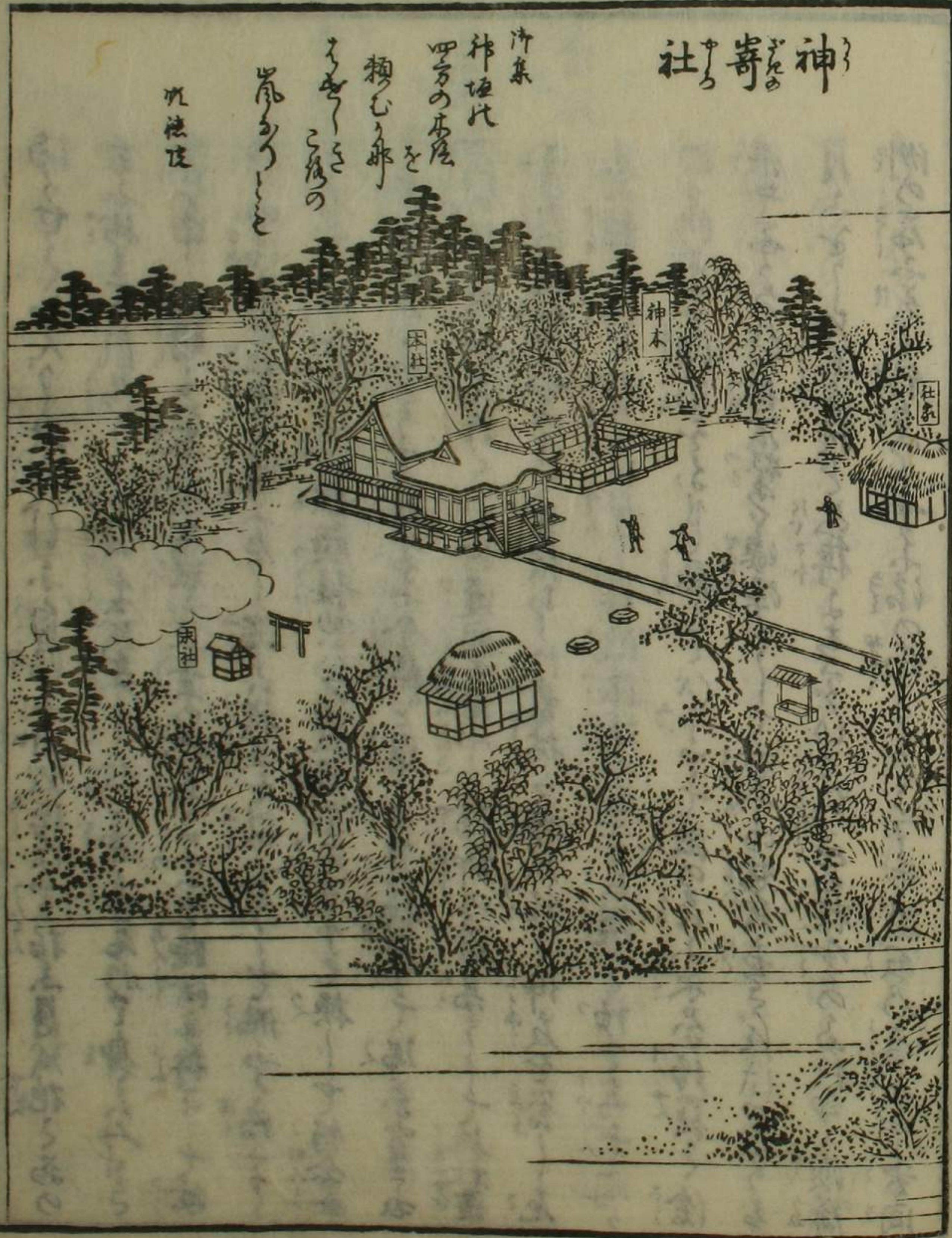
祭神 惶根尊

末社 五前 神樂殿 御供所 神本あり

此神の杜取船く見まはつと森然とて大樹ありと熱風山の
 神さびる社頭たむむい殊勝もてのうらと流波の成を志河らふ好く
 のわてり小川の橋度く都て七八町もあるを中うらと流波の成を志河らふ好く
 傳興ありて麓荒し流り流雁洲寄に下るそ風来の夕下を放風
 二子田長に十二風の母のい足目流ありて屋を吊さるの江流るり駐浪
 天を浸し潮水月よはまき備千頃の被際あは流るり流波せりて
 流波の末は流子て流ありてゆきとの船まのうらと流波の成を志河らふ好く
 業成るん流子て又神の社(指)流波の成を志河らふ好くうらと流波の成を志河らふ好く

神寄社

沖集
作垣此
四方の各屋
頼心集
を
えき
こ
の
嵐
の
吹
は
た



浦をくくちんぐ此方へは白浪と月夜流の雲根月夜抱く為の
方小波まう風馬うしてまを瓜家くたる海舟もれを身ふみり
養と浦の頭へ共葉葉冠冠二葉の野舟よまを種清舟持うて後
浪の水清くは糸懸け流るる消く我是を洗はるくて流るる
漁父あり竿取下して輕綳紐のたぐひ取釣ふ三公もを換りや存念
く芦魚の中とていふ寸屠者小合織と獲り月夜持うて帰る有る
一約の縁の外利名種く三尺の遠回天地中揚柳の月高うして孤
蒼花の風軟くわあて雪然らる易林と輕取釣く仲友を容る
意ハ龜を釣て曹公成器とむ波浪遠く出く巨鱗を釣るも
形る所も魚笛をふり歸るまび下して波の流る小波取釣罷る
浪舟もるるれ舟取釣る凄涼くして古今の悲成書さばはけり
月ふさうたも種と只持よまをひりる様雲のあれは浪
洲の岸もさく船白のくち小浪の面さくして撒取乃ち在る書回

舟のうらうらむ境のけりわの流松帯を舟まひる小虫の委注さうて
いこめ流るる形も腰かりあふ小ちをひて船を中へ入るくして
状舎に溜くさうて遊く信事さう四千里も行程小舟りれ
長小着く

香取 下
香取の浦小着は地下総の地續り行ば下総中属に在り
神社中々陸地十八町あり

香取浦 をり
香取の浦をり

香取太神宮 香取郡小湊
香取太神宮 香取郡小湊 延喜式名神大

祭神 経津主命
祭神 経津主命

若宮 幸社の
若宮 幸社の

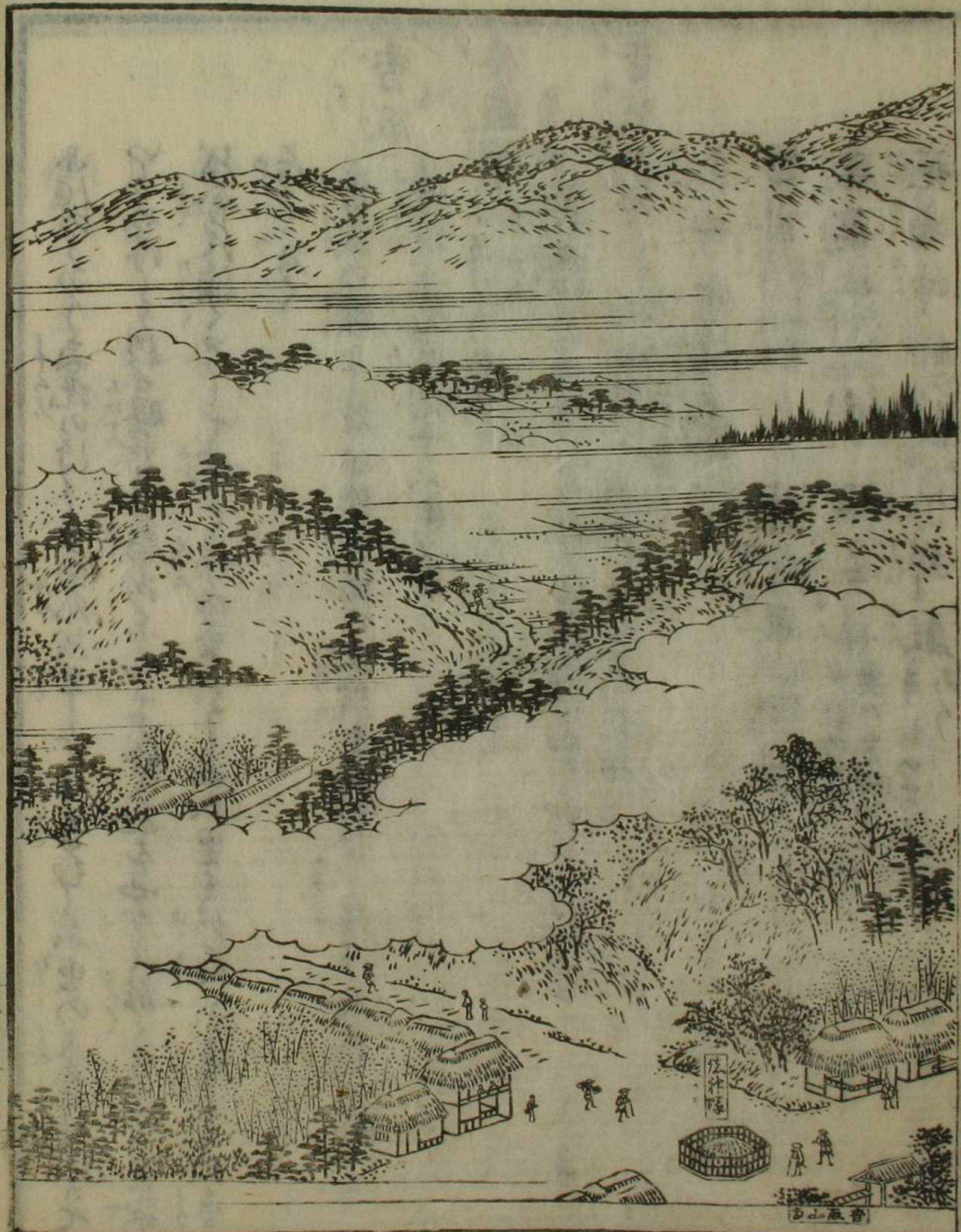
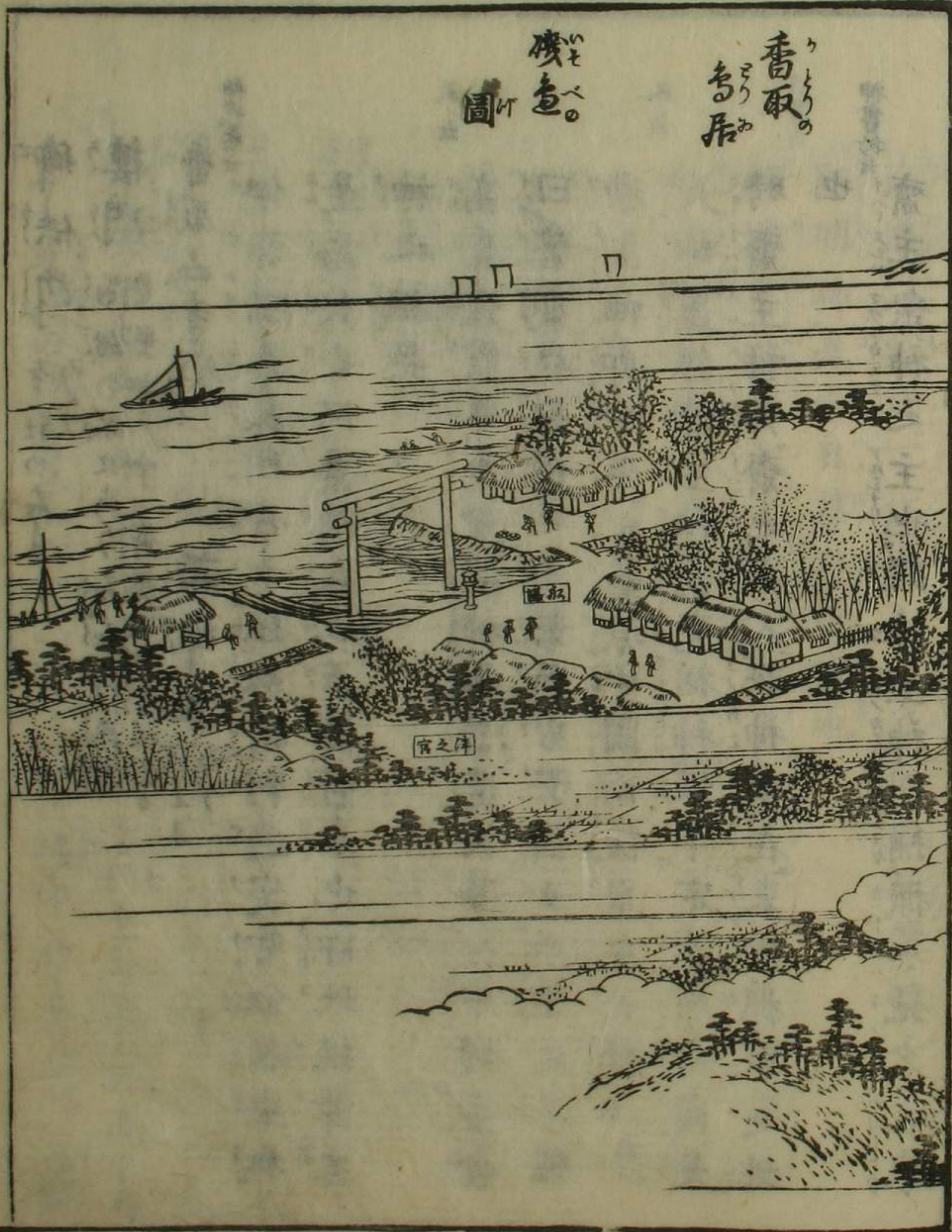
鹿島社 幸社の
鹿島社 幸社の

菟齋神 幸社の右
菟齋神 幸社の右

神樂殿 月所
神樂殿 月所

子安社 幸社の左
子安社 幸社の左

香取の
高居
磯
魚
圖



本名五ノ八

御供所 本社の存す

樓門 豊敷殿の末にあり右に神座あり

香取山寺 右に諸神塚あり

伊弉諾尊拔所帶十握劍斬軻遇突智劍又垂血是為天安河邊所在五百箇磐石也即此經津主神之祖矣

高皇產靈尊更會諸神選當遣於葦原中國者僉

曰磐裂根裂神之子磐筒男磐筒女所生之子經

津主神即令平定葦原中國而後皇孫天降云

天神遣經津主神武甕槌神使平定葦原中國是時齋主神彌齋之大人此神今在東國攝取之地也

齋主祭神之主也經津主神別稱攝取地名在東

神書抄云

又云

又云

神代卷云

海道下総國一作香取今為郡名故經津主号香

取明神是春日第二神殿也

經津主神者天之鎮神也其先出自諾尊初諾尊

斬遇突血成赤霧天下陰闇直達天漢化為三百

六十五度七百八十三磐石是謂星度之精也氣

化為神号曰磐裂是謂歲星之精裂生根去是謂

熒惑之精去生磐筒男是謂太白之精男生磐筒

女是謂辰星之精女生經津主是謂鎮星之精

夫南社の地より先の新島より社傳云神代より其の法存ありて神武天皇

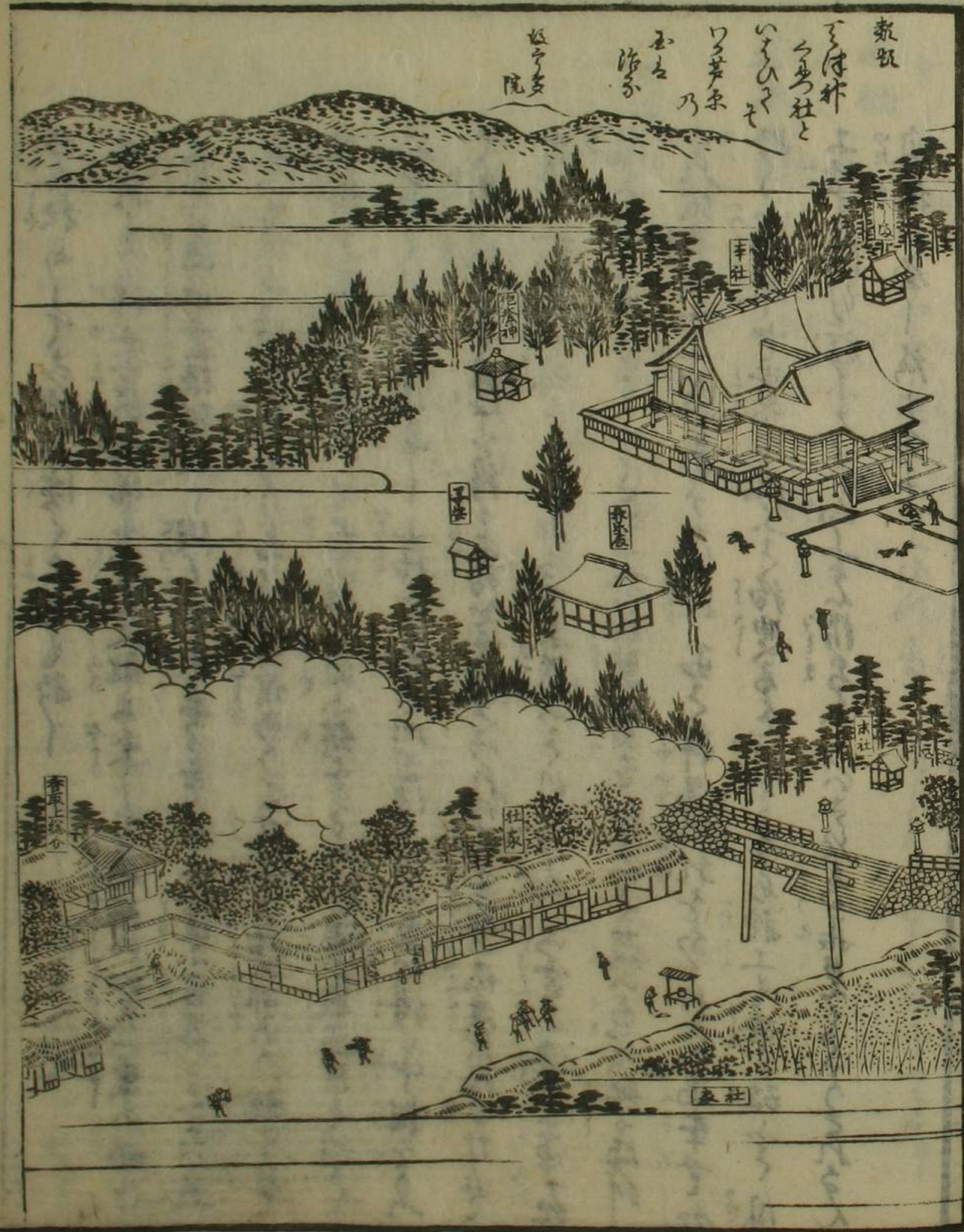
元年法宮より舞臺より乞乞多岐例祭の正月四月八月十月小歳より夏

いんぐりね社殿一千石大社宣紙香取上総介少判友を備方強ひて云

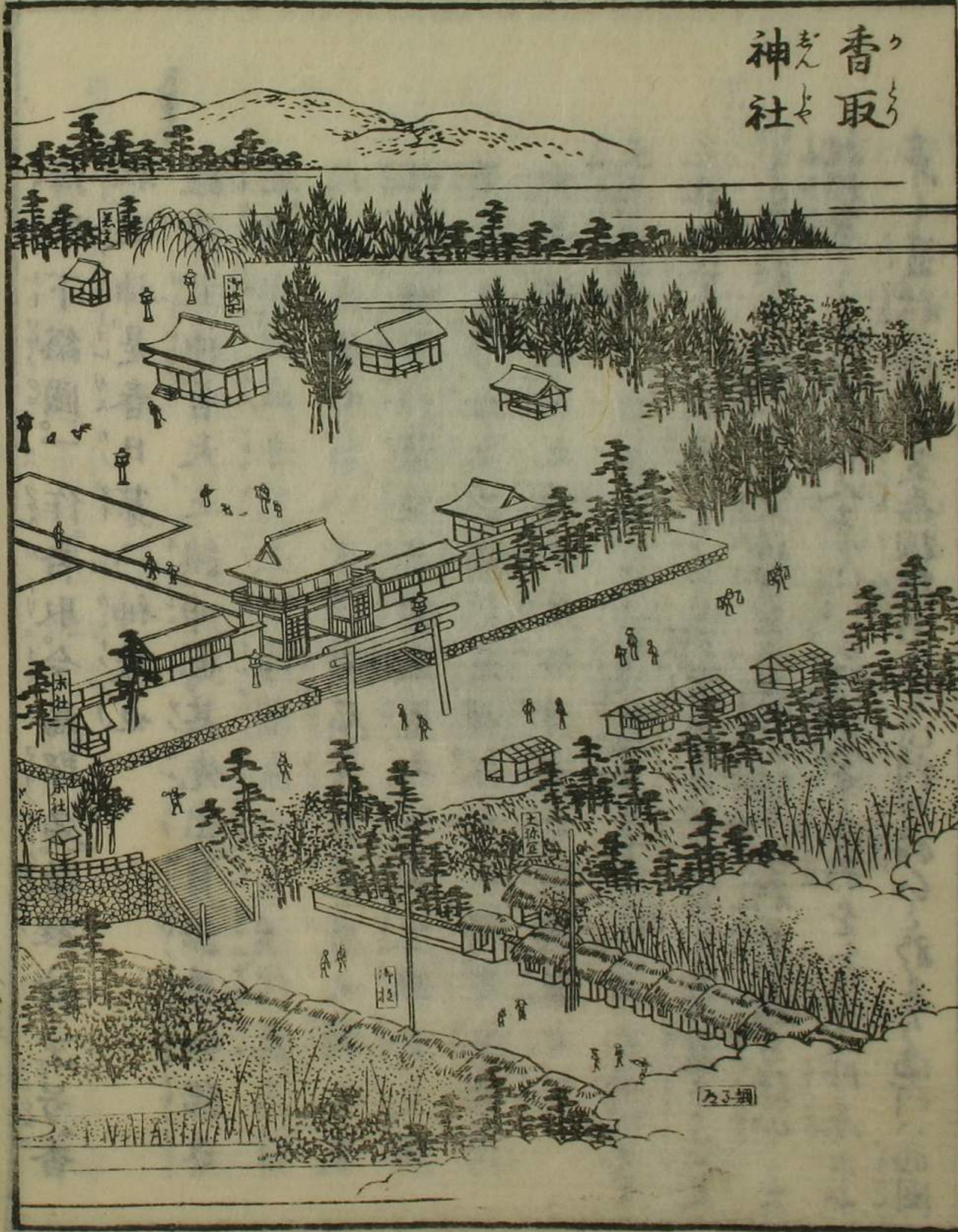
社地廣くして小社人多く門前の高入茶店軒をわく又伊房止ん

多し夏秋の頃も芝居相撲ありて社の裾の通りは河内國

天書云



香取神社



の本社ありて古神不遠く文長も形
 古神より津之宮の船場本座と又船本系とて萬頃の内天一葉のゆき
 只見る流水雲根根根侵し潤くして幸ありて遠小若岸と人さへ教
 面小舟して釣をる者あり若岸尚の傍ありて文王を釣の洲あり餌をば
 其得とむ人祿を食んで若小服をば小餅をさるく奥を取祿成さるく
 人を取る人祿獲はるく一釣をりて川には遠小奥成得の中餌をり
 て國成得を其中と釣る大釣とをばつら其其國の成得成得なり
 つひくかの箱を流ありて水も風も随ふりつら其雲と連さるる
 風も散く考のてくまこのつら其其國の成得成得なり
 これ成得をそ一盞をのりつけ小舟を斜陽の影をあらめと萬事量
 好り一釣半を賞し湖より釣豊を酒をさる船工も昔の跡を風
 小舟は漕り程小舟の向ふも居るよらいつら其其國の成得成得なり
 息柁の舟一舟とつら

息柁

此地を常陸國とて高野馬のほりつら其其國の成得成得なり
 舟一舟とつら

息柁大明神

息柁大明神 息柁大明神 一町

息柁大明神 息柁大明神 一町

神祇

息柁大明神 息柁大明神 一町

末社二社

幸社の後小

日一社

幸社の後小

猿田丸社

幸社の後小

日一社

幸社の後小

八丈龍王社

幸社の後小

日一社

幸社の後小

当社と人皇十五代神功皇后東夷征伐の時時南海本北水門に泊り
 終ふに時時紅海波小漂泊く進得を水ま力とはく勢もつら其其國の成得成得なり
 庫北海岸に成る皇居傍に終ふよ此の神忽ち三箇男の神や
 況し武甕槌命経津主命孫は東征の將軍とつら其其國の成得成得なり
 皇居と終ふは促ひ神のつら其其國の成得成得なり



息の栖社



終に還幸の時武甕槌神武甕槌神武甕槌神武甕槌神を攝取小多るとは神
武甕槌神の漢母を多ると崇教他も異なり故小東國二社との時小八武甕王
湖中より陰龍陽龍と云ふ二ツ石井と名付た秋とこれ全播磨の浦に
是れ靈泉なり厥后五十一代平城天皇明神と名付た宗一終ひて大同二年に
月十二日高宗元曆小勅して云ふ神祠を建て又陰龍陽龍の靈泉の
海中多居の左右に酒出の朝の中にあつたと云ふも其味は淡く故小悪湯の
井との夕神杖杖炊なる倭勢國朝越山の昭星井と城國賀茂の清子
洗井は靈水と日本三所の名泉と又神寶小龍神秋とる所の古視あり
て枝葉の模範と云ふる海中小瀬満をたて視の中はとも水派生と千成
と名と又祝も乾く上右と禁裏の寶庫小網と云ふ故高社建立の事
あり網終つたり

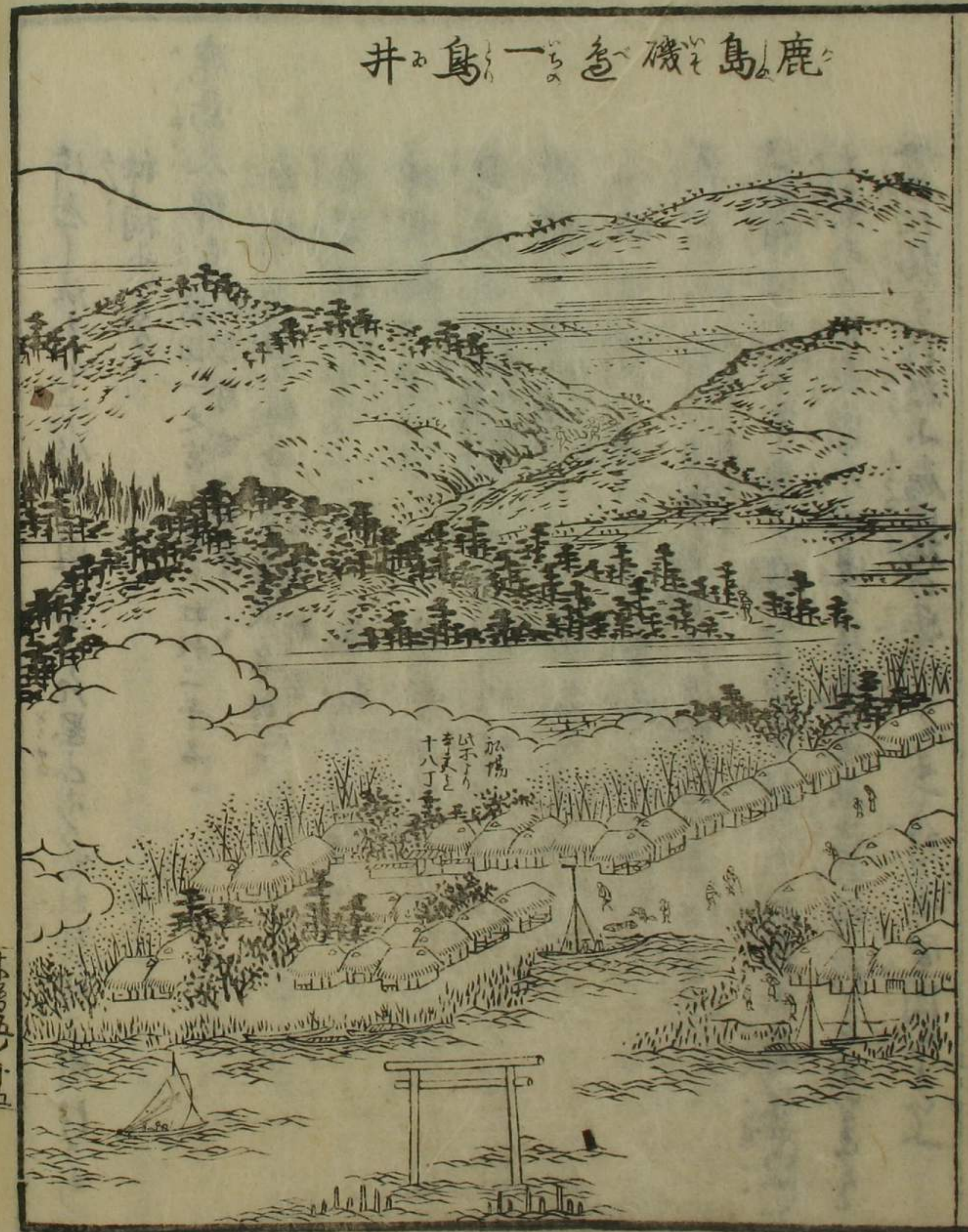
遠く葦葎風水と云ふと津海を付葦葎の書あり小白浪天と云ふ人て働く
その指は入海と幸名と其情いと云ふ源五つあり一小上郡利根川幸
國より大堀川系依川蠶糠川流波川等舎一土人利根川と云ふと
江流四つあり下総國府川二五河内信太の妻那の同小牛久の湖と云ふ舎し
又三小下総相馬より一川流是幸國新居と云ふ一流舎は又四橋あり源流
大洲の香取海流麻ありり者取麻島兩郡の界九度サ半里と云ふは
桃子に云ふ大澤の海はあり

霞浦 又香澄と書ん
動後拾 霞のうまをいせてくれある家此浦乃あはのいさり大
動後拾 白波の浦を是と採天の原と云ふは是のうたは海かありらひ
動後拾 春來てとあはれと云ふの種中て家の浦を名もや云ふん
動後拾 土庫屋の浦をり云ふはと見と見とぬ人をそのひは
ゆく門のあちと云ふはと云ふの事ありはは浦と云ふありと云ふは

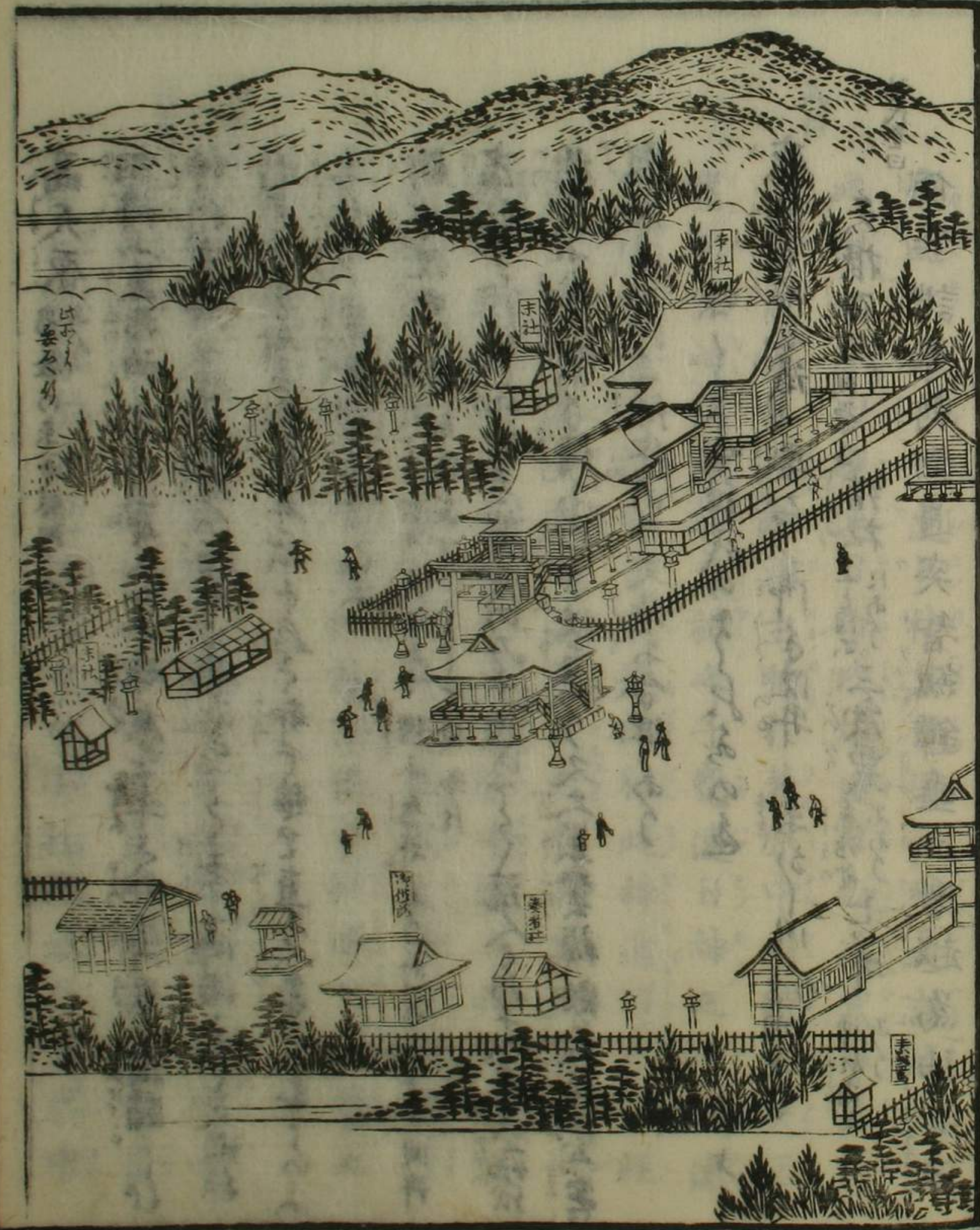
後二位 雅家
定家



鹿島磯色一鳥の井



本巻五ノ十五



高天原 高天原の東十條河

相傳相傳麻呂神麻呂神乃不乃不比比世世不不少少群群麻麻をを率率之之外外國國のの鬼鬼とと相相闘闘ししてて神神利利ありあり附附之之群群麻麻之之進進之之風風之之進進之之海海濱濱不不入入又又此此利利未未之之時時之之群群麻麻耳耳之之都都之之直直不不入入又又此此土土人人時時其其幸幸成成之之也也

御手洗井 奉社より武所并あり傍不為井あり并の廣サ十回并
尙社のまじの井之賀茂のみよしのくく流人へ入る其麻呂
所系小者流あり傍不洗を洗ちり又之是雲辨賦天龍室客
殿庫裏池之流守あり又傍不為井あり

鹿島七不思議 要石 洗手洗井 志の川 志の川を同原に

伊弉諾尊斬軻遇突智劍鐔垂血激越為神号曰 伊弉諾尊斬軻遇突智劍鐔垂血激越為神号曰

又曰

瓊速日神次燖速日神其瓊速日神是武甕槌神
之祖也亦曰瓊速日命次燖速日命次武甕槌神
高皇產靈尊使經津主神於葦原中國時有天石
窟所住神稜威雄走神之子瓊速日神之子燖速
日神燖速日神之子武甕槌神此神進日豈唯經
津主神獨為丈夫而吾非丈夫者哉其辞氣慷慨
故以即配經津主神令平葦原中國二神降到出
雲國于時大己貴神及其子事代主神共避隱於
是二神誅諸不順鬼神等而後皇孫降日向襲之

高千穂峯
武甕槌者常陸國鹿島明神是春日第一神殿也
武甕槌者天之進神也其先出自稜威雄走者昔
有天閻霧方四里許其中有小孔化為石窟窟中

神書抄云
天書云

有神是謂雄走走生甕速日。甕生燂速日。燂生武

甕植

夫當社と神代より茅楯の將軍やして多くの邪神を滅しおまも神武
天皇東征の時河も麻呂香取の神を陣頭に出たありて匈奴破れ
征し終つて活國平天下の鎮守やしてより小宮長吉しく建ておまも
を三笠山に執向し終つて第一第二の神を麻呂香取より其後平將門
礼儀の時神祠も荒廢すやして六孫王より依孫吉秀郷建位し
又其後も右大將頼朝平天下の後建久四年五月今のや、壯業より文殿
城幕営ありて社於若干城寄附し終つて例祭と最毎八十好成懈りかく
行ふ其中に大祭より多の相く小祭あり

鹿島大祭

正月元日より三日まで月次の神事五節句は下月ト

日 四日 年山祭

日 五日 江戸會

日 七日 江戸用白馬の神事

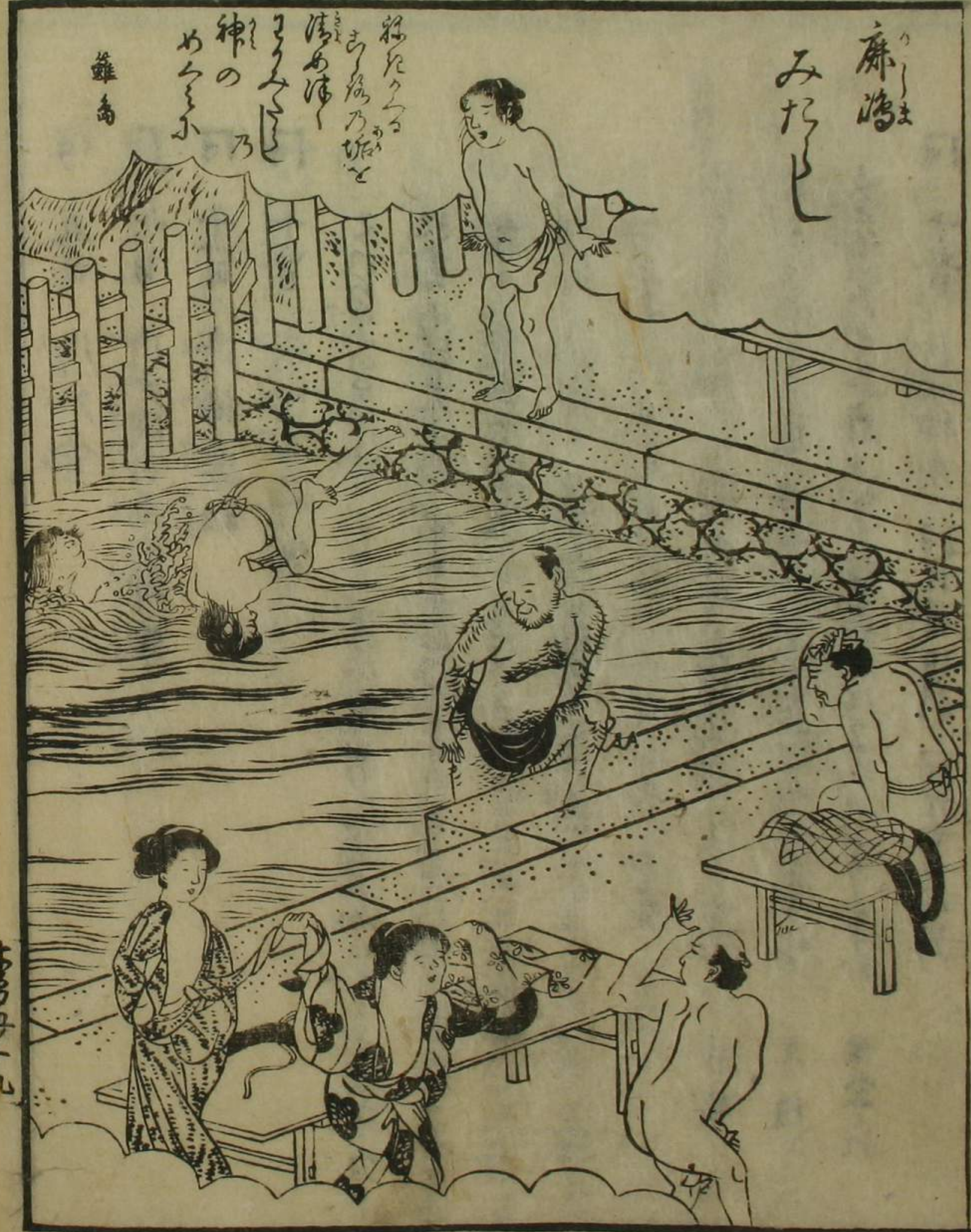
日 十日 神樂初

日 十四日 常陸常神事

これ糸の目けじしとる女の何をある付ら女の名も麻呂の常
に書おは先く神事並並お中れとる男ののさなるとその
常よりおふとれとるあしとるておまもあまね女にてたも
を思ふ男の名ある常事並並お中れとる神事並並お中れとる男を
おまもあまねとるおまもあまねとるおまもあまねとる

新撰古
夫本
日
東海は乃のそとけるおまもあまねとるおまもあまねとる
後領
光後
後人

日 十音 月次神事 日廿一日日 日廿七日日



雑沓
 神の
 めぐさ
 乃

麻
 鴻
 みた
 じ

二月月次神幸七座 神代持

三月月次神幸七座

四月廿日 一万社神幸

四月朔日より十五日まで奉社并末社神幸

五月奉月の毎日より尚月五日まで神幸流落馬あり

六月月次神幸五座

六月月次神幸七座

毎日 名越後

七月三日 平國の神幸始 神門出神幸とも子楯あり

同日 七日 七種神幸土用干神寶成福

同日 十日 十一日 十二日 平國神幸

八月 新嘗會神幸

同日 月次神幸七座

九月九日 重陽三神幸 相撲會あり

同日 月次神幸七座

十月 亥日の神幸

十一月朔日より十五日まで奉宮并末社神幸

同日 神火燒 月次神幸七座

十二月 初年三日神幸

同日 廿七日 養末の神幸

同日 月次神幸

下畧

神經塚 奉社の後小あり又井の馬場もあり
親書聖人經塚記し今今い經物
廣圓寺 麻布あり麻布赤童子と記し親書聖人小見く
赤童子の杖はさ終り園あり
赤童子の杖はさ終り園あり

鹿嶋故城 鹿嶋山より六郎宗幹をくれと築きしあり

倭平盛衰記及び東遊
麻島氏世系考にあり

子種より又船より麻島氏出く物事より人々舵工小舟に日
と舟より多浦風そよそ吹来ま浪を引く船をゆきゆく
とて千里をある所のちありせ母りや船路のゆるい東の方小
漕ども押しも引くも早く来たは事あり次舟小舟の乗あはく成て
ゆる運風はゆる楫を動かすをよき板の方へを用ふるは先
麻島の方へゆくべしとてゆるゆるゆるゆるの舟事なまはの
より半里も未だらん舟も不あはれ事なうせしは板へ中
中より水主大い腹をこころ約しぬまはゆらふおあはれ何の益あらん
海をゆくは又この舟事での扱くしてはゆらゆらるるまはづ方せよ
白の地は分べし是は舵工潮流の色は赤し白の地は漕り小舟方
て一所ありこの舟事なまはとて又漕流をまはし押し小舟をり

要石

帆葉に

あはれ

麻島乃

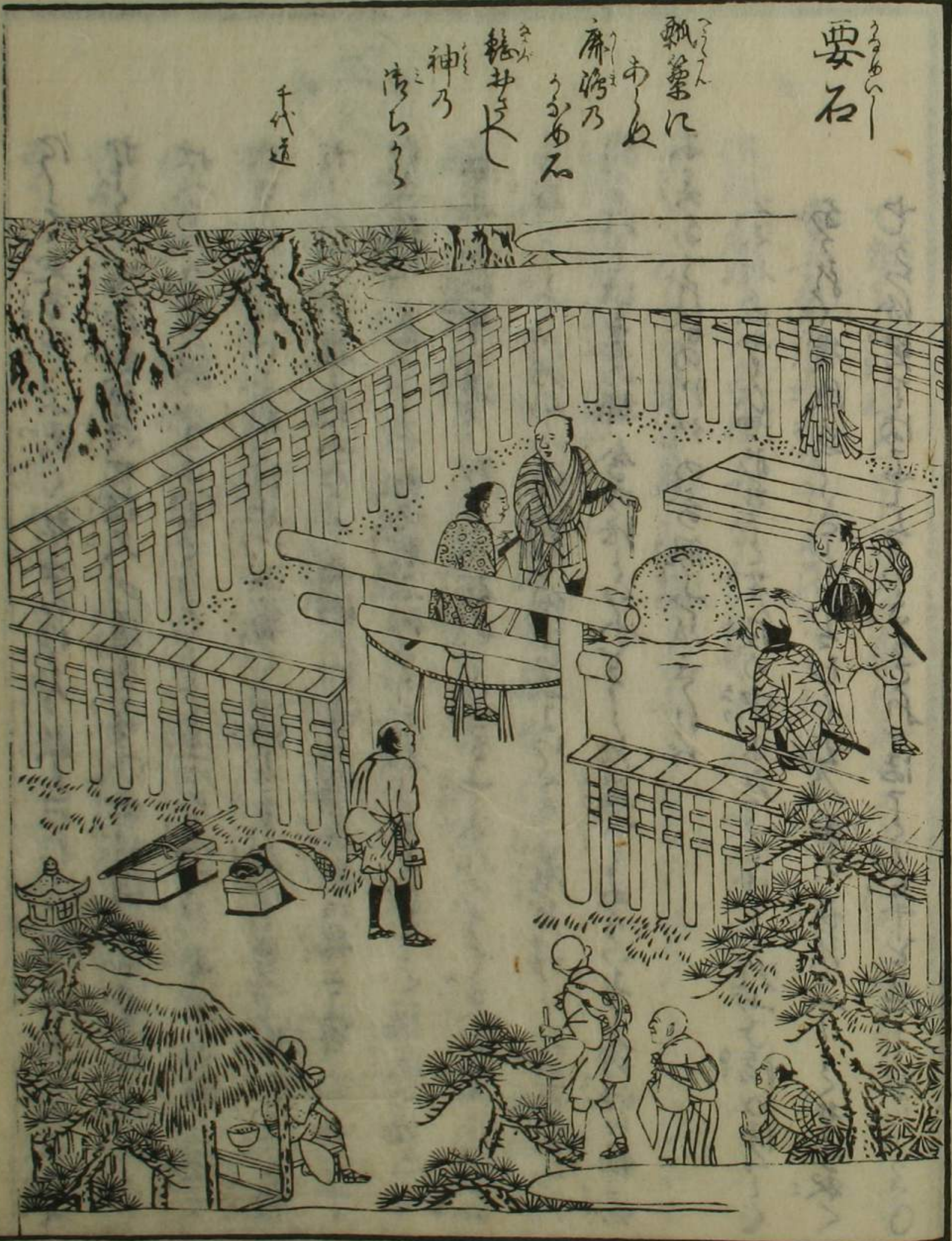
うらむ石

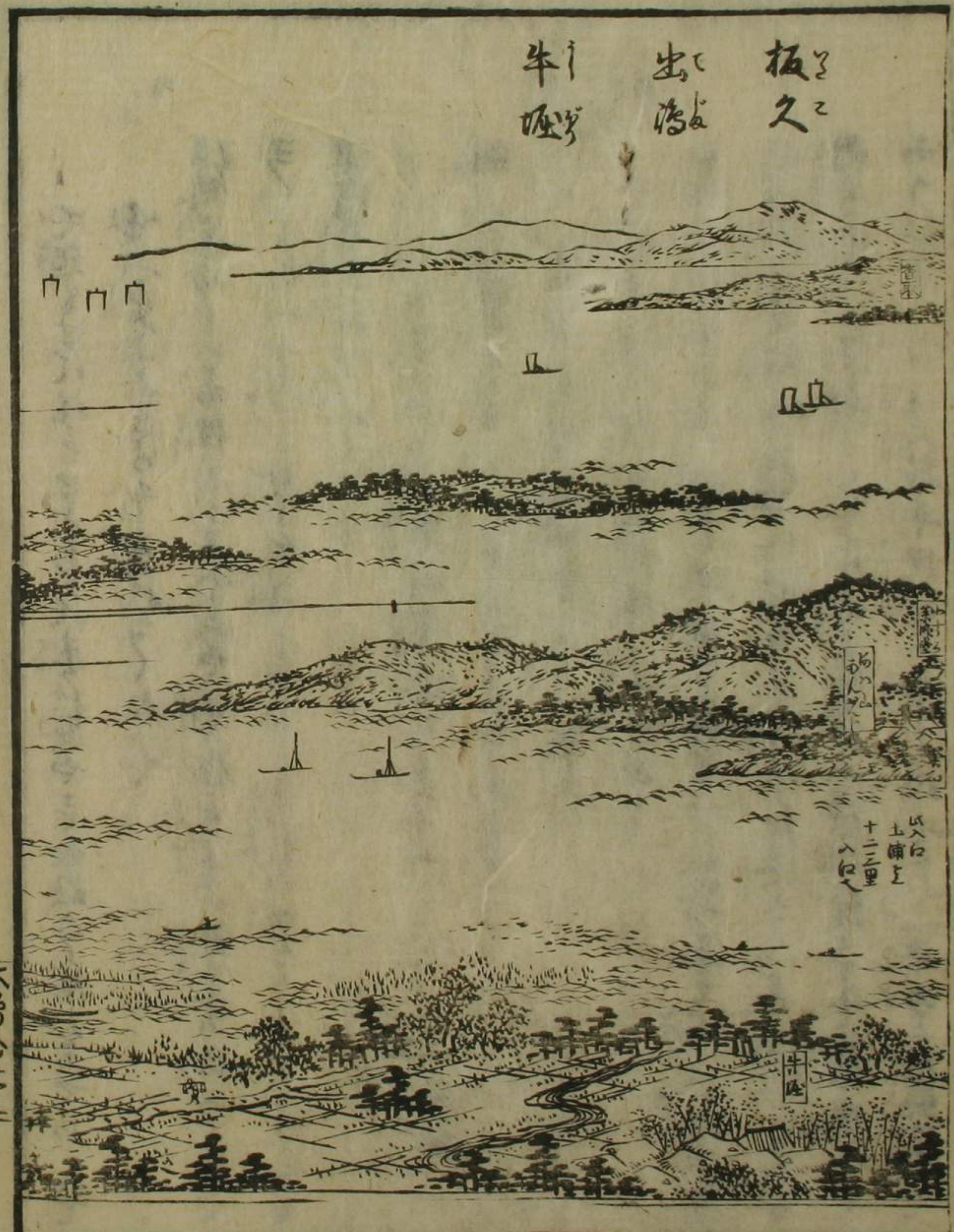
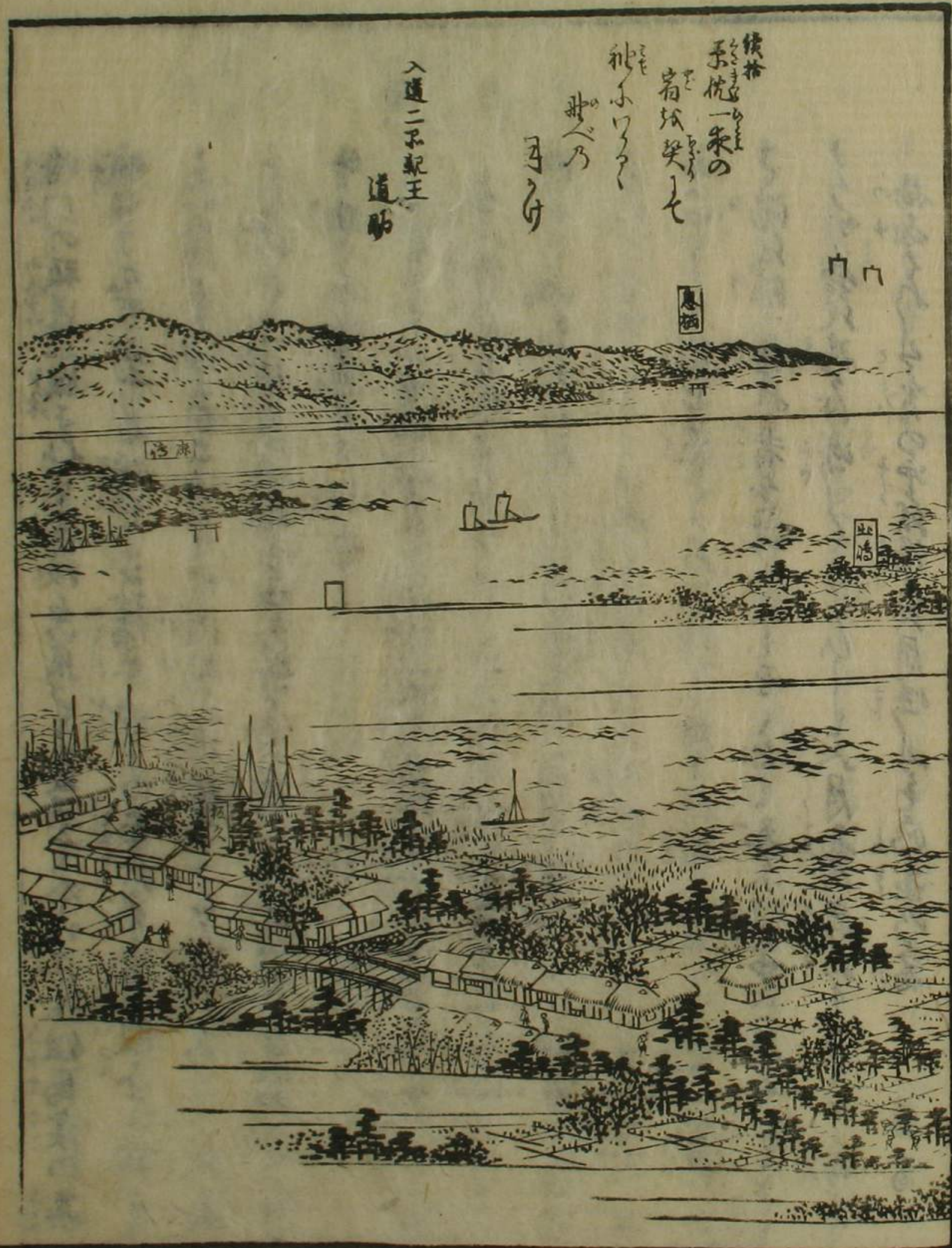
船中

神乃

流らる

千代通





将門の殺逐小滅され其後より久く多うそ今ハ土屋但馬彦の居
城より九万五千石領せし其後牛埜より南に方小阿波守て小所有
これ小川を隔てる土地あり阿波山安福寺より北に判りて又北に
牛埜より麻生まで路あり

麻生 常陸

玉造まで四里に麻生と新庄後河原の城下なりを百石竹寺所
有人所室もあつて道をひいて登ると里に古くは寺あり
所より海系あり街道の形もあはれは里離れの酒家と店
えれは垂筆紙ありと深本海系あり小同物の多ありをみるに
あつては室と建つこれ小振せし所なり路より登ると小鹽と
又湯城海へ是れ暑を避く程もなく月もあふ傾き六月と
より可ぬれ其うげ海へくさくさといふも又月夜の名所も
梅雨よりさすの平気海へ六月迄とて海並乃宿 難島

是をそんごく小書く何うにとらるればさしは母く酒
さく免答しける者も鶴卵成物して其方へて破り豆油成物
さして出れ上方までせね幸よく又あはれ月も積りうねさし
寒く新しぬ敷帳をゆきぬきせぬ敷ありひさゆりくせし
さくく用意して立出ぬ

玉造 常陸

小川 常陸

府中 常陸

小川まで二里に所もけしの牧舎の地ありて有人も多し町
道より東に所房も是よりわたりて小川の宿あり
府中まで二里に地と水戸街道ありて所房東にあり又馬行
もあつて水戸城下まで七里より小川地ゆきて繁し高
小畑まで三里に所も都舎の地ありて有人所房東にありけ
所房とて種馬馬とて多しとて道細くして悪し所房
小見まで六里に農家ありて所房ありて地ありて小川
頼むよけ頃麦刈田種ありて忙しとて多し道は是のそ人



常小烟 陸

小川の所へ入居ふそのく口は案内を乞ふとて
 先ふまゝのりゆゑとて山とせりた水鏡を越くまひとて日
 と山の端のわかれとてたれを御控灯とたふりよそひとて
 ぬまゝとて村の上の川とてわがとて案内のくは道筋をへて
 入居それよりりふるまはく降り道とてし山家とてわがま
 りゆゑは小川の里とては筑波山の麓とて道の道はまの
 多る宿を尋ふ小五六所もゆゑ片山里の酒家なりあつと
 と未嘗あつとて止はそとて又降へとてゆゑとて
 舟の二の夜とてゆゑとて宿を乞ふとてゆゑとて止は
 又降へとてゆゑとてゆゑとてゆゑとてゆゑとて
 十三塚までま里小川の宿を乞ふとてゆゑとてゆゑとて
 被もとてゆゑとてゆゑとてゆゑとてゆゑとて
 雨降るとて林とて側は法雲寺とて梵文あつは門前とて
 筑波山とて

碑あり守山居士崎元明撰安永八己年夏六月これを建立せり
新しき碑史文を畧しけ日々々々頻る其袖袂を志すて流流波の
山下本つた

十三塚

流波山上をき里十三塚の里あり此山家もく豊原もまうん
これいん山とせり道あり道と淨潔とて岩角崖窟より謝靈
運白山の峯に登る小本履を看す川險しをせり時と前蓋をきり又
下向とれと後蓋取をせり又蘭亭記玄會稽の山陰葉亭子今ん
け地崇山峻炭炭林脩竹あり又俛仰の間小陳逐あり其終ら山よ
比せんや

流波山中禪寺

流波郡 禁八馬のてく三郡小侍川 眞發 山頂小僧
峰あり南武陽峯とて北を陰峰とて武陽相對して八圃の
相模 上徳 陸武 寺觀とある坂東曼曼の名嶽たりとを古今の序
目を流波そやそたつたあり此山小僧ありある身月夜ありとて志

本号廿廿

危け此山をふたどきり終りてみり多ひてありと流りありや
志ありめりそんまうありと小ありにされたりと流波山あり
わけ多君と稱ぐひと終りて身本を流すたりとありふあり

古今書 流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

男勝神社

流波山頂陽峯小漢本
延喜式流波山神社二座大一名神

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

流波指の峯此山ありと終りて身本を流すたりとありふあり

素神 伊特諾尊
女辨幸社 後輩小鏡有ん

素神 伊特冊尊

日讀尊社 月讀尊社 素盞鳥尊 蛭児尊 素盞山御子

二神 伊幸原 通成子

千手窟 山嶽丹

鸚鵡石 あり

安座石 洞山徳盛大土 持念一うんをく

白雲滝 女辨の山廻り

羨那濃川 男辨の山中丹滝あり

小泊水の花乃さうや美如長河等々を流す水乃さう流

はらけの岩乃様や美如北川あり種々別とらやはり人

本巻五十九七

新撰

英那農川等より流る紅雲をばのりて波とさくを深らん

後撰

大御堂 流波の山下あり

幸手千手観世音 千手の座より出現の

三重塔 大日如来あり

岡山塔 岡山徳盛大土を

薬師堂 安座あり

太子堂 聖徳太子あり

求聞持堂 大佛堂あり

聖天宮 山の方山同し

約庵堂 日所あり

男辨鳥居 あり

女辨島居女の島に

夫は山は京幸名筑波と書といゆ東海運流して波乃の海
 坂小堤防を築く古跡は遊ふにやふの築波や書に及人祀して
 筑波と名づく二神登山一歩のく水波を産婦乃海小退けらるる
 産婦一歩のく兼おきりて後人皇又十代桓武帝の時法相乃名所徳
 屋大士は山よまをこれ幸心とて山よ二柱乃清神と勧修し其外
 清子西柱の言は遺産のゆ千手子那の大聖乃善像乃
 世系乃奇物天賦舟達一沼波下一歩の神田三千町と云は
 神取佛園修存にむすを豊とて造るし後小大士自ら千手
 祝書成彫琢して男伴女伴の如地佛の如く其後弘仁年中弘法大師
 あく小登山一歩の如く峯もくまの客法を修し後一歩の如く
 真之祝意乃霊場とて兜率の内院小比一補陀洛山と云ふ
 男伴女伴れ峯より其川一流乃滝也なり是筑波河川也

本巻五十八

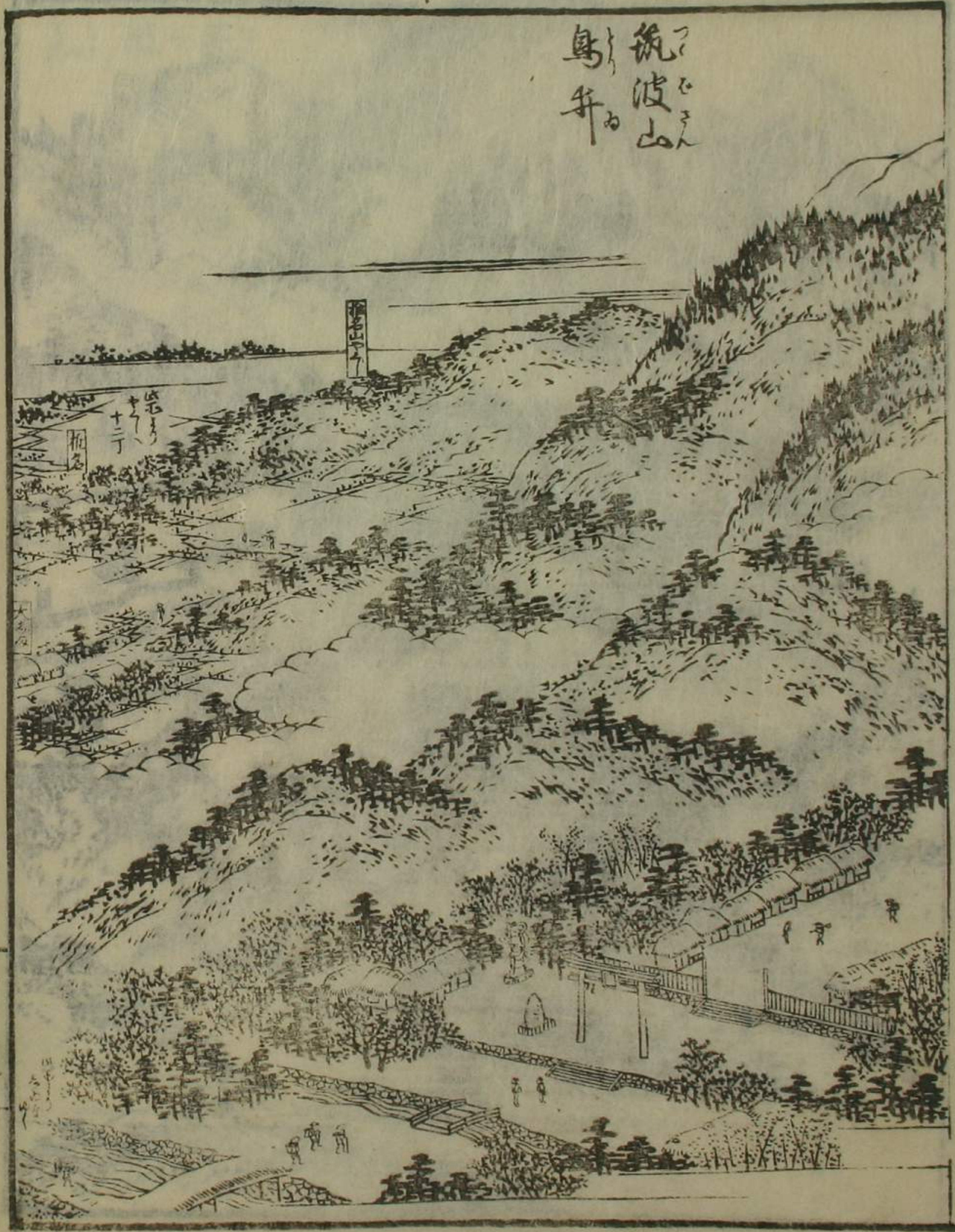
小畑
 法雲寺
 筑波碑



小畑



統波山
鳥井



本巻五十三

常陸
推名

号はこれ女男乃神乃靈泉とれがまき意一痛トみよじと名附陰陽
和身乃派まありぬ山女之境界トあり辰坂五表の雲山なり特にお
東開官家乃所降依あり六月、勢富一積入道城邊ふあり成東乃の
靈嶽まごお傍の道乃清神と仰ぐを思れありと志しれり梓は統波
山と澤とあり五基山の西南勢同けくあり飛來しとるふあり
山中小美茶林本より及山中程寺とあり江府乃鳥居を護持院と
号し志云京に寺あり七十石統波乃町長く寺無なり縁
房より及西家もま一先と尚園乃名嶽ありてみふは清神也
惠と形とあり
一鳥居 御傍にあり
雪多しやうさだま川ひきたれ乃統波山 嵐雪
小栗中を四里半これよりけりて林野を日くさなるれが所と
道より身より小志たひくはしく長と地多なりとく民居有

民房色々又所業ありつれも日トは海をのりて同登ま久河と
小栗川を常陸下所乃國界あり程あり小栗北里小泊ふ

小栗野

去國中を二里八町小栗より馬とりて野尻まで日利とけは
酒をたなぐ馬隸の小欵婦一城守をのりて乃松にけふまて
四里のひるくそりゆる木嵐をさるるくちたけりて旅に
衣に穿く袴をひく叔齊音陽のをにへりて三春乃り
をそ所許由が頼門の月小住一おぼく一靴の器をけりてこひ
牛焼く程をありまはふ

真岡野

小守屋中を武里八町は真岡て前を名うて細き本陣を
さし白くくあり素門ありの服本用白は瓜真忌本陣と云
は所を近隣の村邑乃船倉地をわがもひの庭より又販商人拍戸
も見ゆる白虎通ふ其貨物遠近ふあひ四方小通して金と銀む
て種瓜ある人との危蟲と陶ふ何れ時天下の中四方小貨物

通して交易を所産沢洛く千金銭後江自稱く陶米公と号
位ふあり所を壘相ふあり庶人あり千金の王とありと自願と
わりのくは地を辭進はたれり又丹原のり先見と忠成と馬
借りて案用とせりて本葉をとりて草薙の花咲くわく夏松
葉通ふより一武里もわく人衆も見るに馬隸りけし陸奥
までもはらして初より四十餘里をとりて小津や下野の名あり小
津の形を思つた人里も見えは下野中津小瀬ふくをと休ん
け東の人もあはれを樹林もわく竹林もあり平泉芳をわく運を
わく風外の遊線湯の泉群ありけりけりてお逢ふとみ先
が川実を馬ふありは後逢ふよりわく所小葉をわくゆとわ
人をさたふやふ先後乃あはれを後逢のありけりけりしは河
のりてふりてあはれは河原をわくりて利根川小島をわくは川を
越く小守屋を所よりけりて道田時よりわく新くはけりて草

成りし源去小足の内事ありて之類難し七少と云ふ

小守屋

宇都宮中を武里半は街乃平地なれどいづれ泥所くふありてなる小
道よりあやむ既小夕陽あふこ目小くさる物と云ふぬを志ぬ水
ふまふれく是ふゆするもの苦れ病草の常月草の花うり
きり野やきり一畝の二十四葉せりふきり共小畑ふりあなる
道をおしは夏のはれせりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
今を思ふ我身若う今成りてせ之は我ら若う中り
こ種り行なふ助けはるき移りまるともなうりゆりゆりゆりゆり
あり

下野都宮

あれり日光まで九里下野の半より西へり又日光まで廿里奥州
白河まで廿里半十三河仙基まで六十里
は所乃味さる大田園懐守彦ありて七万七千八百石を賦せしは
相去の地ゆり方のもありて徳小所あり勿論は戸より奥羽

本居五ノ世二

宇都宮大明神

街通りて販食菜店賃食家あり町中此乃方小宇都宮あり
社殿奇麗ありて清人多しは所の生土神と云

祭神大己貴命 例祭九月九日

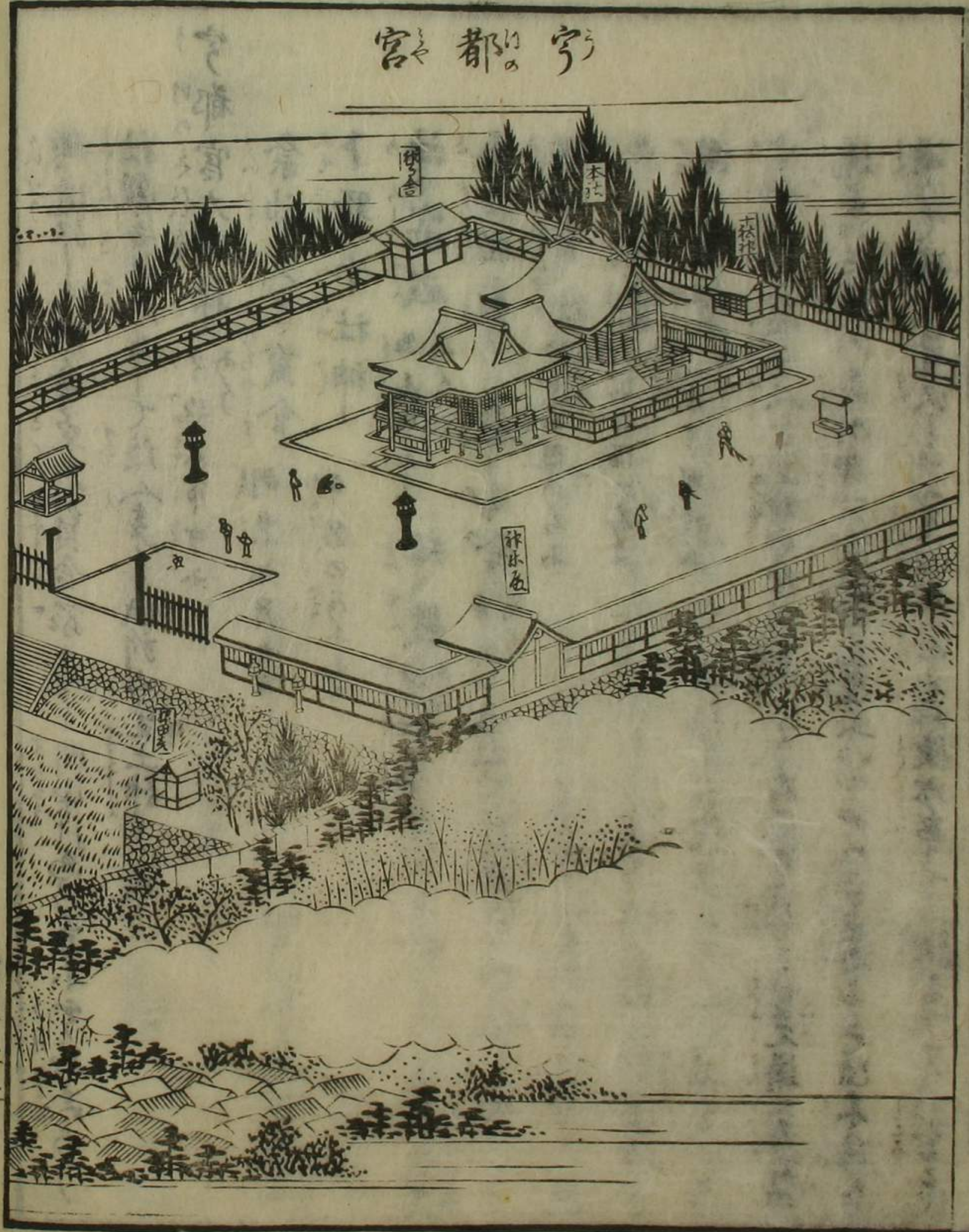
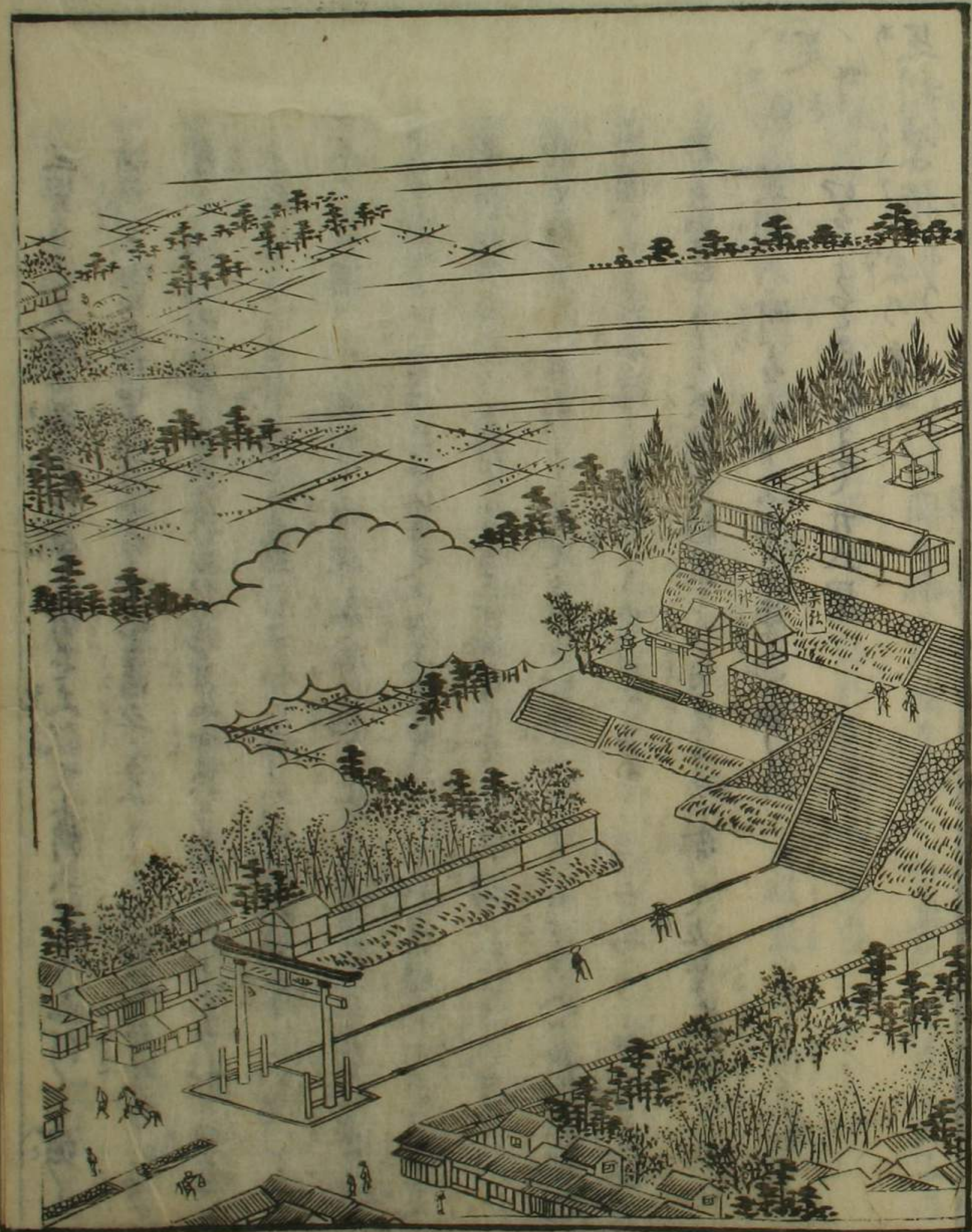
下野十社神

神楽殿 神馬舎 拜殿

左右回廊 猿田彦社

天神宮 観音堂

宇都宮乃販食人を之出く所乃半より右の方一里を日光道く左右の
道より老松乃並樹成りて道を度しつゝおれを暑きをは本塔を
通して涼し世沢と云ふ左は成りては徳小所ありては本塔を



本巻五ノ州三

下野 足利
足利學校

三里あり又枚の並本流るるりて大沢に所ふりてはば一畑
は所まてハ又武里ありてりと道平ふして左右の並本ゆりて
りまぬものありてこれ終るる所ふりてはば一畑
山深くそ入る今市てふ所ハりてはば一畑
人多く賑わく賑わく一陣敷食人拍子ありてはば一畑
てりりくの物を市にさるる入り小生通して別道ありて是も日光
街道あり日光より江戸まで二十四里と云ふ交通ありて二十六里と云ふ
或里道なれど通ありて川を多しけ今市より日光の入口所乃河
二里ありて並本流るる所ハりて小農家もあり道と名ありてはば日光
形は六町ありて其間定ぬまより日光まで都て九里と云ふ
足利乃所て山下ふあり東は長一
江戸よりと云ふは廿二里

門二重あり二乃門の間小橋の列樹を極り奥の門乃内ふ入り
所廟あり其本は海棠榎柳梅絲ばり力やあり
所廟南小向て面六間入四間ありはりてはば一畑
ありて是は東階西階あり堂上ふ本はりてはば一畑
座像ありて長式大守許又聖像乃赤巻左右は教曾思蓋乃四配乃
神主あり堂の内は赤巻蓋蓋蓋豆のてりてはば一畑
あり神像の赤小小房あり若き室形りやりてはば一畑
有茶は楳丸乃にありて其内小小野堂乃神主ありてはば一畑
所宇小野堂は學校を創て即し所と其宇同所ありてはば一畑
て宇割乃ありてはば一畑神主は赤巻乃ありてはば一畑
憲實再び學校を建てるはば一畑園覺寺よりはば一畑
てはば一畑其内よりはば一畑乃宇同を若きありてはば一畑
送れりてはば一畑足利の學校も廢りてはば一畑

寺に学校と建ち和隆の群書伝蔵先儒書史史印佛書五史印
 と神金沢文庫乃四文字伝蔵先儒書史史印佛書五史印
 も類蔵して書籍もみからるく小坂文庫も名のとほりそわり聖
 教つうて近世は學校も二要和者より後つう足利の書を持て洛東
 一宗寺小僧と二要の願つう才辨ありて 將軍家も何候に世乃人
 こ種々學校と号に付 官家より植字一萬字と所寄附あり足
 利の學校小僧持とる僧ハ鎌倉建長寺に傳授たり今も學校と稱と
 宗徒傳傳統五六人ありと所々儒書坊勸學に付所廟小社領石
 官家より所寄附に聖堂と寛文年中に所より所建立ありまこ
 聖廟乃東の方に列をあれと寄居あり中北正面小堂所を安に又其
 西小 國初將軍北所位牌あり
 學校の東隣小虚空庵寺あり又寺中堂古一福の方小高山あり寺氏
 乃城跡ありやう足利の所を西に付大坂あり後ら願つうこ種々足利の

上野大回

岡とつ終るり下野上野の國界なりとせ川上足利より二里半奥小
 相生とら所あり為と緒と多く織物なり相生と緒の名よりて宇
 る比諸國へは地より出
 足利より上列深田八本も里を回す一里半を回す
 本寄、まき里二十町
 を回と勢田義貞乃古城より比所即新田なりり比少と城山背
 ありて金山とら新田大炊分義より義貞中を居住志り一人あり
 上野國乃信人勢田小を即義貞とら八幡を即義家十七代の後
 亂傳家嫡流の名を如し知ても平氏世とらりて四海みか感ふはる
 物ありるれを力あり國東の伴役もはる金割心のかあると世向
 なるあふいなるあふなる出まに及る府執事新田入及義昌城迫付
 て室ひなるあふ一り平氏朝家には及る平氏世とらりて
 とはる源氏とれを志所先源家上城あり日平家と種を治むる

石平記

不方ありともしも尚ほこれらにて信代等輩の名はけせを
御ふ今相持入乃のゆゆを見らふ滅亡遠うふありは永年國に
歸して我志をあげ先約の宿願成中もあまんと存むるが勅令成
成るもをけしうあといひして大塔寺の令旨成賜ひけし事候と達
まんとせしわいひたれを船回入道墨とて大塔寺といふ名に
て所存なるを義昌房候を先づしとて今旨を申す也
や事成せしげふ候事して申のよが度前へぞ歸せし其旨日船回
申のんが若輩成三十四人御伏の子とせしとせしとて申すも
の事へせし我身も成の勢の中にもあつて申すも方とせしとて
久し月も時をく同じ軍成ぞとせしとて申すも方とせしとて
どもおれをさして候方れ候候とせしとて申すも方とせしとて
よりとて申すも方とせしとて申すも方とせしとて申すも方と
せしとて申すも方とせしとて申すも方とせしとて申すも方と

大塔寺

本寺史代

今海老成たりとのありし事今も海軍ありあふは船回成事候
へつりて御旗を上んて御ふ令旨ありてはけしとせしとて申すも
大塔寺の御成御成候の御成あり候とて申すも方とせしとて
しては方の候を候とて官の御成あり候とて申すも方とせしとて
ち候不候びとて御成あり候とて申すも方とせしとて申すも方と
者候一のり候成候たりと今旨とて申すも方とせしとて申すも方と
十人を爲る事成人官の御成あり候とて申すも方とせしとて申すも方と
一日ありて令旨成候あり候とて申すも方とせしとて申すも方と
あふで倫旨の文章に書れたり其詞小なり
論言成ありて日記を後萬國を理せし明君乃徳なり礼とほ
く四海を治むる武臣の節也頂事の間高時法勝が一教 朝憲成
形ひが治りて徳なりとて徳を極し獲魚のなり天珠成候なり
爰も果年の履成候成候なりとて申すも方とせしとて申すも方と

敵感む海、忠貴何ぞ淡く、早く関東征伐の謀をめぐり、
 天下静謐の功績、後とて、者綸旨、おのれ、執達、出陣、

元弘三年二月十一日

左少辨

新田小左郎左衛門

綸旨の文章、家之眉目、小左郎左衛門、綸旨、おのれ、義貞、斜、り、た、様、と、
 其、お、目、よ、る、虚、病、と、て、意、死、幸、國、を、ぞ、り、れ、る、

山の西南の方、小義重の寺あり、大光院と云、寺、尺、二百六十石、附、く、地、所、
 等、も、宮、邸、を、と、て、い、や、と、り、此、村、甚、小、義、貞、の、一、族、家、人、乃、在、名、多、り、
 山、と、名、田、山、の、麓、に、あり、服、屋、屋、と、名、田、乃、西、本、傍、の、山、あり、篠、塚、の、田、
 の、事、も、小、左、郎、世、良、田、に、田、由、良、大、銀、の、田、と、本、傍、此、田、本、あり、世、良、田、と、
 道、の、中、に、小、左、郎、大、村、あり、大、銀、と、世、良、田、乃、本、あり、江、田、の、二、村、あり、
 中、に、田、と、道、の、側、あり、由、良、も、道、の、中、に、あり、大、井、田、堀、に、河、川、も、け、
 有、り、小、左、郎、み、か、れ、義、貞、の、一、族、家、人、の、住、せ、り、在、所、と、



日光道
今市駐

林原
松の箱
鳥乃野

赤代明

上本郷野

芝を三里半十町本郷の南半里徳川とす所あり松平の御先
祖 徳川四郎義孝此後ひし所之其後代々此地を領し其徳川
村高正百石あり其所の農家けり取らる義貞の後裔新田年人
り人 官家より知り二百石下され徳川の辺村田島村小岳村せり
或曰義貞の子孫岩松乃江常及知り又百石りれ岩松村小岳村せり
り小郷田乃色之 已上奥平氏の 芝の同小竹石の邊あり和七後
利根川の別まじり枝川なり上流を利根川とせりふあり
五料まじりま里 芝と五料の同利根川あり五料の旁川の邊に上
官家より清番所あり中死をの城あり芝と五料の同緒井所あり
てあり川首更本一里せ定むりは是より厩橋に里利根川の上赤木
山と厩橋の上あり山は浮島保乃保も赤木山あり色あり
倉加聖して三里は同小玉村とす所ありは倉加聖と東山
道乃幸街道形り

上芝野

上五料野

下野

惣社大明神

下野 宝八幡ゆり 日光初石町より今市まで式里
今市より板橋まで式里 板橋より麻沼まで三里六町
は同小文夾とら小高ありあれを根たり
麻沼より赤佐系(モ中系) 赤佐系より金橋までモ中系
金橋より左の方へを里まじりは惣社村あり其邑小林あり
其内小岳あり
惣社大明神 下野の
は高し海の本室乃海あり小岳乃てりるるるハツたりその
先分り知りして地と平泊あり今とあり徳乃大サ山並に方
武間より有其保小板あり生ありり海のまを乃池より水
煙乃てりる其美觀しけり其村の人ありり小今水
たれ火煙も形しやりり川ありあり
いそろひありり色をりるは宝の八島乃煙馬りてり

夜花

千載

日月の如き宮乃八幡原見て石段より下波のより折る

保乃社

新古

新古の如く見ゆるやうなるにむねの中は海を渡り船を

新古

新古

新古の如く見ゆるやうなるにむねの中は海を渡り船を

定家

日

日

日

夫本

夫本の如く見ゆるやうなるにむねの中は海を渡り船を

後成

日

日

隆源

日

日

隆源

日 夫本の如く見ゆるやうなるにむねの中は海を渡り船を

日 夫本の如く見ゆるやうなるにむねの中は海を渡り船を

日 夫本の如く見ゆるやうなるにむねの中は海を渡り船を

合戦場

合戦場より楡本まで三里

楡本

楡本より富田へ三里

富田

富田より大伏まで三里

大伏より天明まで半里は同大畧町境を形り長く奇形あり

天明

天明より大伏まで半里は同大畧町境を形り長く奇形あり

今之檢地より五百石なりとも有りたりと云ふ天狗にてむ

葉谷紙橋より天明谷より筑前茶屋谷谷せりく貴谷物と
 大伏石を天明谷も梅花寺天明より鍛冶を武重所鍛冶を
 川股中を里半川股より武列忠中を三里鍛冶の清城天和子
 七月湯除あれども又家水に年再び華たより

下野
 梁田

天明より梁田まで武里半
 足利への路は梁田ゆけ
 天明より右の方へは天明より足利へ三里半あり足利よりを田と
 紗をよりけ道と梁田八本坂通るは天明より足利へゆきぬより
 を田へゆき九里程遠し天明よりを里半と足利のよりゆき
 上列田ゆき道あり天明よりを田中を武重二里ありを田を
 利招川乃よりゆきこれゆき去田安房守信列上田よりゆき
 新より今を城あり日光山乃よりゆきを田所と武重足利
 上をを新田よりを田へゆきあり川ゆきをそのゆき

本居五十四

足利より新田八番天明がせりく奥原氏の
 遺稿然もふ出れあり

二子山

後橋
 二子山ともふ城のやまありみそを城より城まであり
 漢人考ん

安養川

新十
 安養川のふりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 蓮生法師

